

第3回学校運営協議会 議事録

日時：令和5年1月25日（水）午後3時30分

場所：本校会議室

（1）開会の言葉（主幹教諭）

（2）校長あいさつ

お集まりいただきありがとうございます。本日は、今年度最後のコミュニティ・スクールの会議になります。各校務分掌から学校の様子を説明した後、意見交換を行わせていただきます。今年度は、コロナ禍の中でも行事を通常通り開催することができ、修学旅行にも行くことができました。生徒は、授業に落ち着いて取り組んでいます。

中学校までは勉強が苦手であった生徒が多いのですが、素直に教員の指導を受け、力を伸ばしている生徒も少なくありません。風力発電コンペで一位を獲得したり、農業クラブの意見発表で全国大会出場を果たすという活躍を見せた生徒もいます。自動車部は、コロナの影響で大会経験者がいない中で頑張っており、全国大会優勝、6連覇を果たしました。

3年生の進路決定率は91.7%と、昨年の88%を上回っています。進路先は就職が5割、進学が4割、未定が1割です。地域のイベントにも多く取り組みました。特に、3学科合同で行ったイオンモール成田でのイベントでは、生徒たちの頑張る姿を見ることができ、下総高校の宣伝にもなりました。また、滑河駅前のイルミネーションの製作で、成田駅長をお呼びした点灯式も行いました。下総みどり学園との連携授業も行い、生徒が、誰かの役に立てたという思い、自己有用感を高めることができました。

ウクライナ出身のオルガさんを招き、講話をしていただいた際は、生徒が積極的に質問をし、講話を行ったどの学校のよりも生徒が熱心に聞いていたとおっしゃっていただきました。生徒会主催の、ウクライナに対する支援募金も行いました。この後各分掌から報告があり、最後に人事等に関する議事を行います。皆様のお力添えをいただきたいです。本日はよろしく願いいたします。

（3）正副議長選出（15:40）

議長に佐久間敦子委員、副議長に小澤孝一委員を選出した。

(4) 議事(進行はここから会長にうつる)

ア 学校からの報告

① 教務部より(教務主任)

一点目に、行事について、すべての行事を中止せず行うことができた。3年生はコロナウイルスの影響で、行事を我慢していた学年であったが、最後に経験することができてよかった。二点目に、授業について、授業を楽しんでいる生徒が増えた。学校生活アンケートでは、75%の生徒が「授業が楽しい」と回答しており、昨年度より11%アップしている。他の25%の生徒たちにおいてもきめ細やかに指導し、勉強の苦手を克服できるような指導を目標にしていく。

② 生徒指導部より(生徒指導部長)

生徒の問題行動は少なく、落ち着いて生活できている。今年度は、服装規定に関するプロジェクトを開始し、制服や校則の見直しを行っている。生徒と教員で、各校則がなぜあるのかを共に考えながら協議を進めている。来年度の生徒総会で可決できるように進めていく。また、生徒手帳を冊子からwebに移行することが決定した。新入生とその保護者には、紙媒体で配布する。今後も生徒の思いや考えを生かしていくことを目標とする。例えば創立記念日に行事を行ったり、マスコットキャラクターの作成をしたりすることを考えている。

③ 進路指導部より(進路指導部長)

現3年生の進路決定率は91.7%であり、進路未定者は8名である。そのうち半分の生徒は進学受験の結果待ちであり、もう半分の生徒は卒業が決まってから進路活動を行う生徒である。以前は、就職する生徒が多かったが、進学を希望する生徒が増えてきている。来年度は進学を希望する生徒の方が多い可能性もあるため、進路活動の在り方を見直していく。また、学校に届く求人数が増加している。生徒にどのように求人票を公開していくかを見直す必要もある。今年度は、公務員(警察)として1名採用された生徒がいる。

④ 総務部より(総務部長)

今年度は主に、PTA活動、同窓会活動、学校運営協議会を行った。PTA活動では、会報誌の作成(年に2回)、登下校指導(年に3回)、文化祭への参加(受付等)を行った。また会議を通して意見の集約を行った。同窓会活動では、会報誌の作成(年に1回)、同窓会総会での意見交換、同窓会入会式、始業式・終業式への参加を行った。

⑤ 管理厚生部より （管理厚生部員）

コロナウイルス対策として、黙食指導、換気棒作成、各教室への二酸化炭素濃度モニターの設置を行った。災害対策として、地震避難訓練、消火訓練、降下訓練を行った。美化活動として、学期ごとの大掃除、学校周辺のごみ拾いを行った。熱中症対策としてグラウンド、体育館に熱中症指数モニターを設置した。また、冷暖房の工事が終了し、12月より使用を開始した。農場側の工事も今後実施見込みである。

イ 各分科会報告

① 学校教育活動支援分科会 （大徳 正博委員）

イオンモール成田でのイベントでは、下総高校の生徒の生き生きとした活動を見ることができた。生徒の表情がととてもよく、特にイベントに参加した小さい子供への対応が印象深い。また、下総みどり学園との連携授業で、毎年行っているさつまいもの収穫体験の他に、中学一年生の生徒がプログラミングの授業に参加した。下総みどり学園の生徒も楽しんでいたが、下総高校の生徒が、中学生に教えてあげている際の表情がよく、下総高校の生徒の自己有用感を高めることができたと感じた。今後も交流を続けていきたい。

② 地域連携推進分科会 （矢部 明委員）

学校運営協議会の委員になってから初めて下総高校について勉強し、こんなに素晴らしい高校が地域にあることを初めて知った。下総高校を何度か訪れ、生徒の成長を感じることができた。更に下総高校を地域に知ってもらうために、広報活動について会議や意見交換をしていきたい。

③ 広報推進分科会（木内 一夫委員）

広報誌を夏休み中に作成し、発行した。タイトルには、下総高校が学校設立当初「小御門農学校」であったことから、原点に立ち返るという意味を込めて、「小御門」という言葉を入れた。また、生徒の原案を参考に、小御門くんというキャラクターを作成した。下総＝農業というイメージが強いと感じたことから、工業、商業についても強調したいと考え、広報誌では3学科あることを紹介した。また生徒の意見や、農業クラブ、自動車部の好成績を記事にすることができ、生徒の頑張っている姿を伝えることができた。3回ほど会議を行い、様々な方の協力があって完成させることができた。当初3000部を予定していたが、7500部作成し、中学校訪問等で近隣の中学校等に配布することができた。

ウ 学校運営人事に関する意見交換

① 委員より提案

委員 下総高校の事務職員は、昨年度から事務長を含む3名体制となって、人数が少なく、大変厳しい状況だ。県の規定で、事務職員の人数は、学級数によって決定することになっている。しかし下総高校は三学科ある専門高校なので会計処理や設備が多い上、寄宿舎もあり、事務量が他校よりもずっと多い。また、遠隔農場も含め敷地が大変広く、施設に不備があれば見に行く時間も多くなるため、学級数だけでは測りしれない多くの業務がある。事務職員は年休を取得する余裕もなく、いつ誰が倒れてもおかしくない状態である。以上のことから本協議会として来年度以降の事務職員を一名増していただくよう、県に意見具申してはいかがか。

議長 産業関係の高校に勤務していた経験から、事務職員の増員を運営協議会全体の意見としてバックアップしていきたい。

② 承認 (16:08)

議長 承認される方は拍手をお願いします。

(拍手多数)

議長 拍手多数のため承認されました。

(5)事務局より連絡 (16:10)

校長 次年度の学校運営協議会の開催について今年度を同じ3回でよろしいでしょうか。

(多数の委員が賛同)

校長 来年度も学校運営協議会を3回開催いたします。

令和5年度学校運営協議会の第1回目は4月26日(水)に行います。それ以降の日程は後日連絡いたします。

(6) 意見交換

委員 学校運営協議会の委員に、同窓会の会長を加えてほしい。

校長 委員の数が決まっているが、検討する。

委員 同窓会の役員の方にも、下総高校の今の状況を知っていただきたい。来年度、生徒の発表の場があれば、同窓会の役員も呼んでほしい。下総高校が廃校にならない

いでほしいという90代の方からの意見もある。下総高校の存続のために支援していきたい。

委員 広報誌を地域のお店やガソリンスタンドなどに貼らせてもらうのがよいと思う。

委員 来年度から、成田市の小中学校はすべてコミュニティ・スクールになる予定である。

下総高校の学校運営協議会を参考に、教職員に負担をかけないように、魅力的な学校を目指していきたい。

委員 産業界が期待しているのは、社会に出てから役に立つ仕事ができる人である。下総高校のような産業高校がさらに充実し、農業、工業、商業の分野で社会に出てから即戦力となるような人材が増えてほしい。そのために、学校の紹介やアピールを活性化させてほしい。

(7) 閉会の言葉 (主幹教諭)